

エネファーム研修会

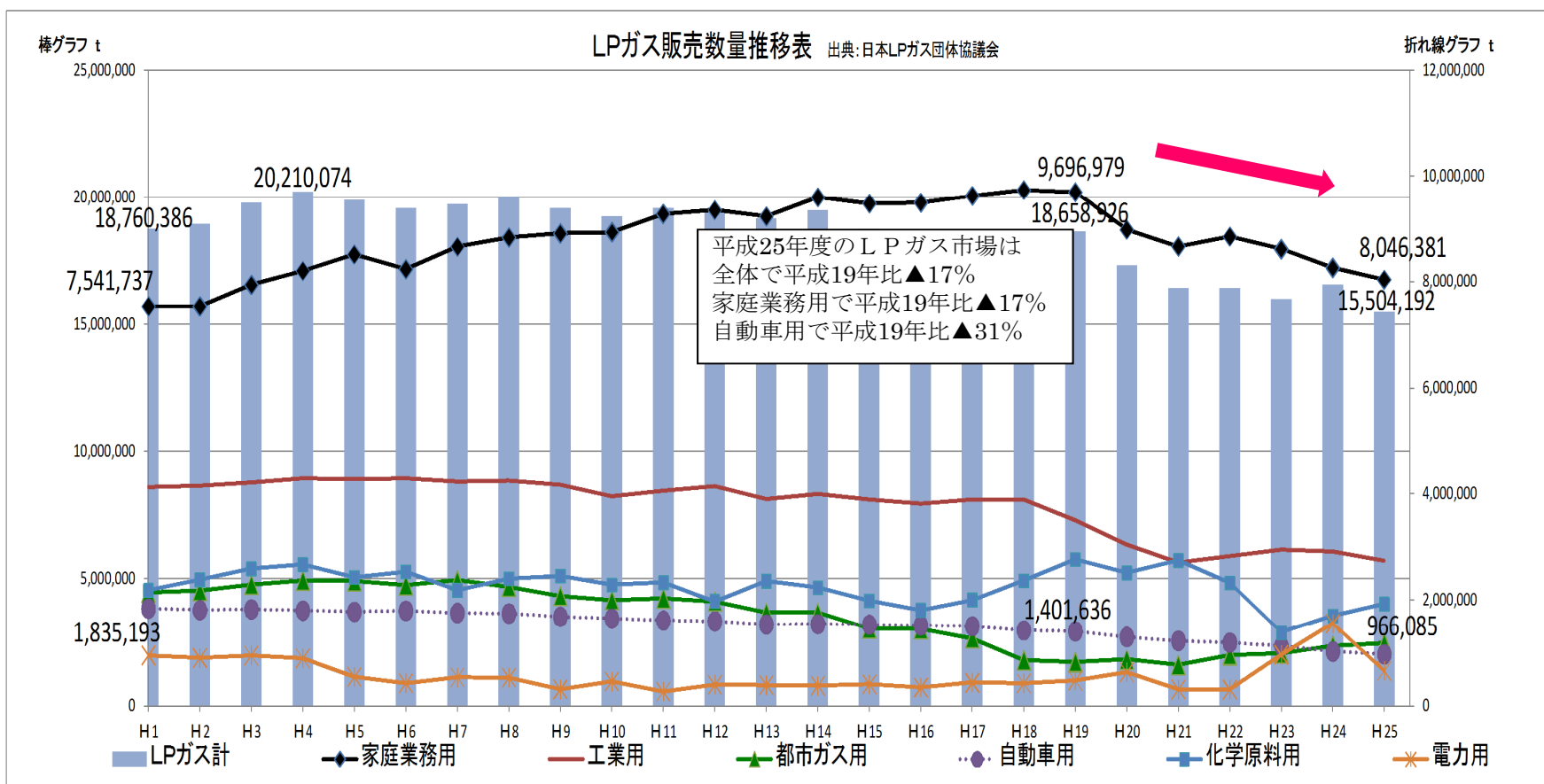


一般社団法人 全国LPガス協会

1.需要開発推進運動実施の背景



(1)LPガス販売数量の推移について



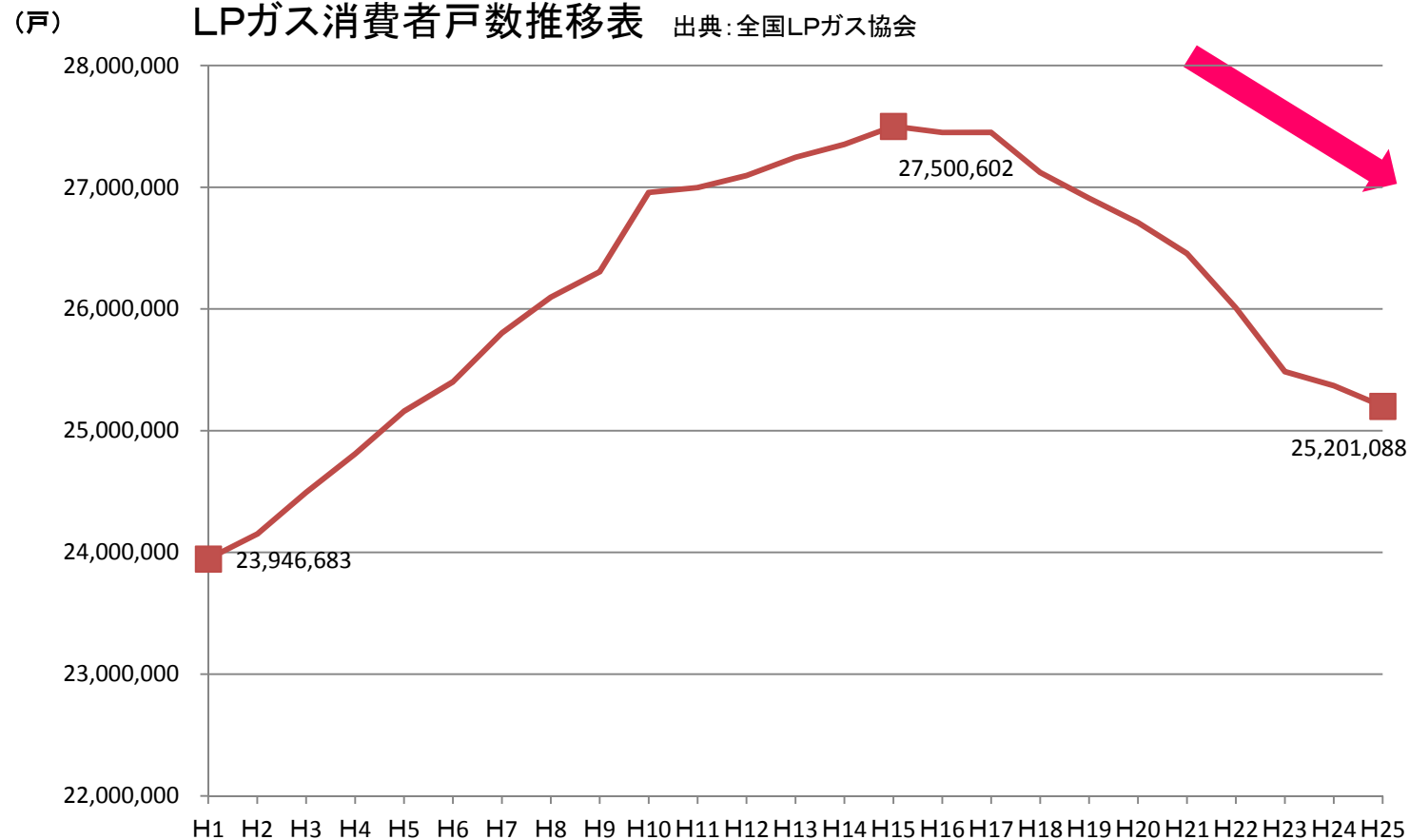
LPガスの販売量は19年以降年々減少傾向にある。



今後LPガス事業者が勝ち残っていくためには、LPガスの販売量を増やす必要がある。

1.需要開発推進運動実施の背景

(2)LPガス消費者戸数推移について



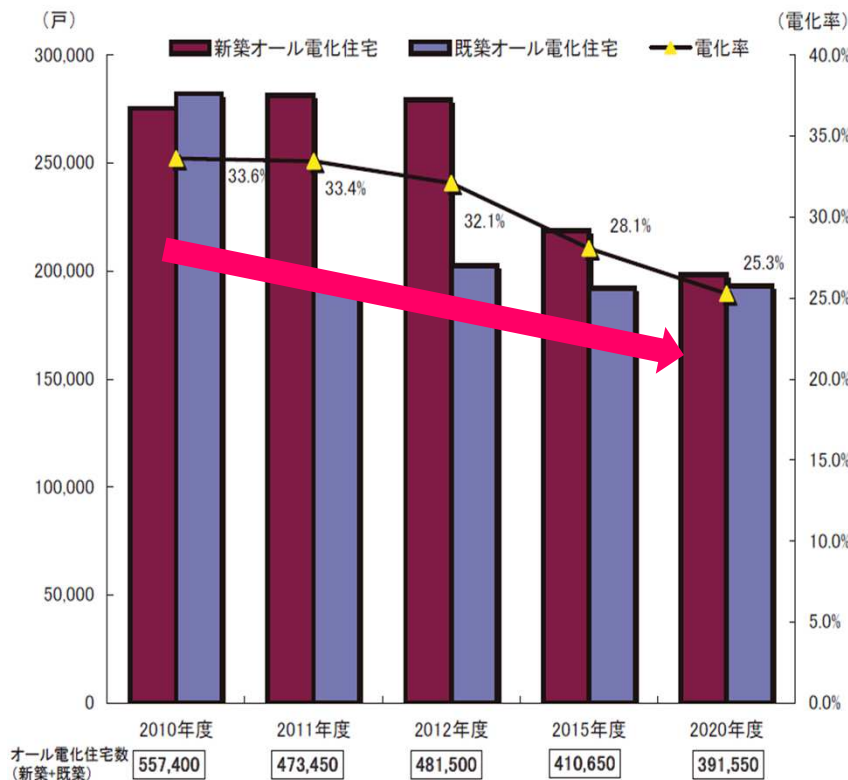
LPガスの消費者戸数はH15年以降、減少傾向にある。



今後LPガス事業者が勝ち残っていくためには、LPガスの消費者戸数を増やす必要がある。

1. 需要開発推進運動実施の背景

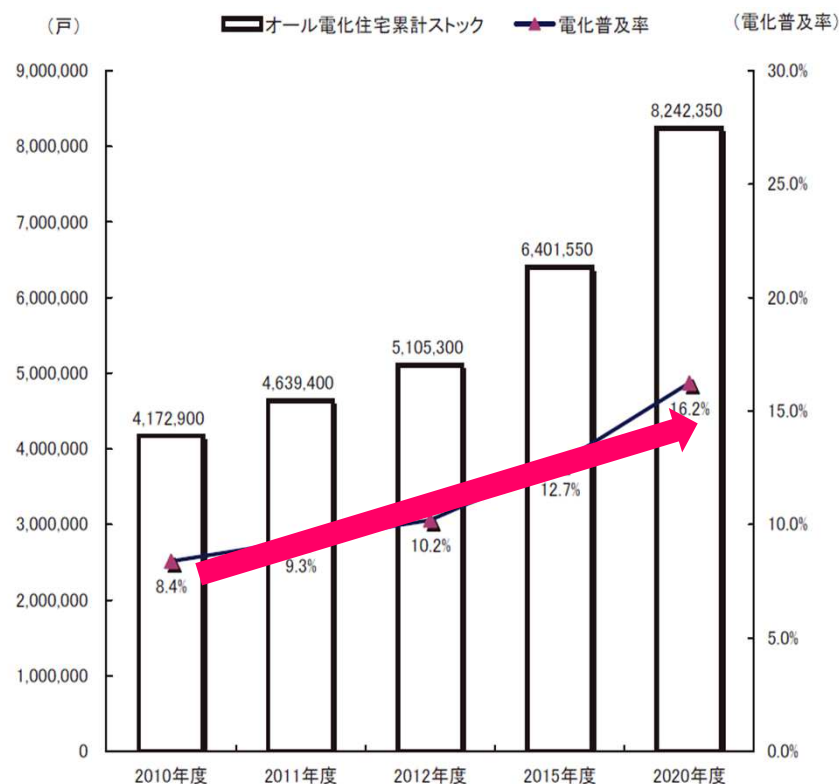
(3) オール電化について



オール電化住宅 年間戸数予測

電化率 = 新築オール電化住宅数 ÷ 新築着工住宅数

出典：株式会社富士経済「エネルギー需要家別マーケット調査要覧2012」〈住宅分野編〉



オール電化住宅累計ストック

東日本震災後、オール電化住宅は年間戸数では減少傾向。しかし、累計戸数では増加傾向。

オール電化の進行による燃料転換の進行。



オール電化に対抗し、LPガスの単位当たりの消費量増加が必要である。

(1) LPガスの位置づけ

- ・化石燃料の中で温室効果ガスの排出が比較的低く、発電においてはミドル電源として活躍可能であり、また最終需要者への供給体制及び備蓄制度が整備され、可搬性、貯蔵の容易性に利点があることから、平時の国民生活、産業活動を支えるとともに、緊急時にも貢献できる分散型のクリーンなガス体エネルギー源である。
- ・災害時にはエネルギー供給の『最後の砦』と記載されている。

(2)「水素社会」実現に向けた取り組みの強化

- ・エネファーム、2020年140万台。2030年530万台の導入を目標としており、コスト低減をすることで自律的に導入が進む環境を実現する。

(3) 家庭用部門における省エネルギーの強化

- ・2020年までに新築の住宅への省エネ基準適合の義務化
- (ZEH=ネット、ゼロ、エネルギー、ハウス。発電電力量－消費電力量 \geq 0)

3.エネファームの販売台数



① エネファームの普及台数の目標

2020年	140万台
2030年	530万台 (10軒に1軒はエネファームの時代)

② 平成25年度の販売台数 (25/4~26/3補助金交付台数)

平成24年補正補助金251億円	53,000台	
都市ガス仕様実績	25,871台	
LPガス仕様実績	5,236台	
合計	31,107台	58%

③ 平成26年度の販売台数 (26/4~27/3補助金交付台数)

平成25年補正補助金200億円	50,000台	
都市ガス仕様実績	31,687台	
LPガス様実績	4,556台	
合計	36,243台	74%

④ 平成27年度の目標販売台数

平成26年補正補助金222億円

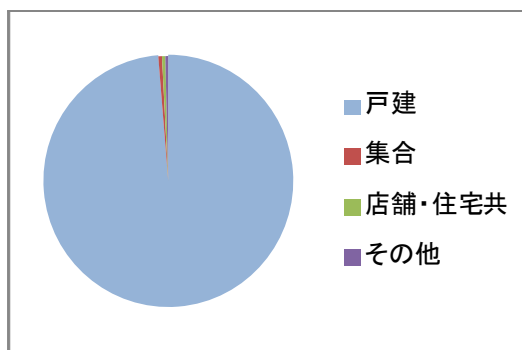
LPガス仕様(目標) 12,000台

4.平成26年度 エネファームの実績

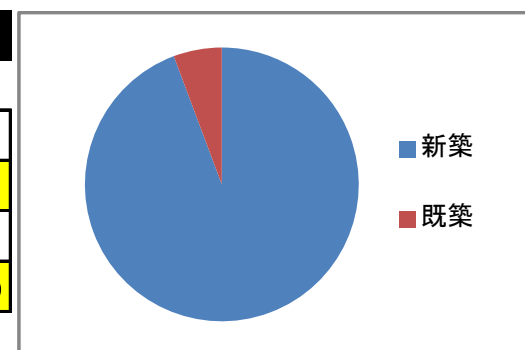
■ 平成26年度(平成26年4月～平成27年2月) エネファーム補助金分布(LPガス+都市ガス仕様機)

(単位:台)

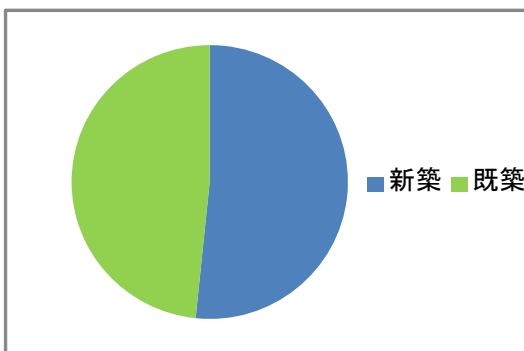
設置家屋別シェア	
戸建	35,785
集合	162
店舗・住宅共	164
その他	132
合計	36,243



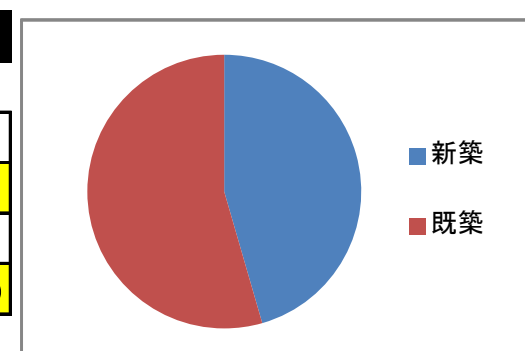
新築・既築別シェア	
LPガス	
新築	4,296
既築	260
合計	4,556
(既築割合6%)	



新築・既築建物別	
新築	18,722
既築	17,521
合計	36,243



新築・既築別シェア	
都市ガス	
新築	14,426
既築	17,261
合計	31,687
(既築割合54%)	



エネファームの普及は、LPガス販売事業者の既設販売への取組が不可欠！！

ご清聴ありがとうございました